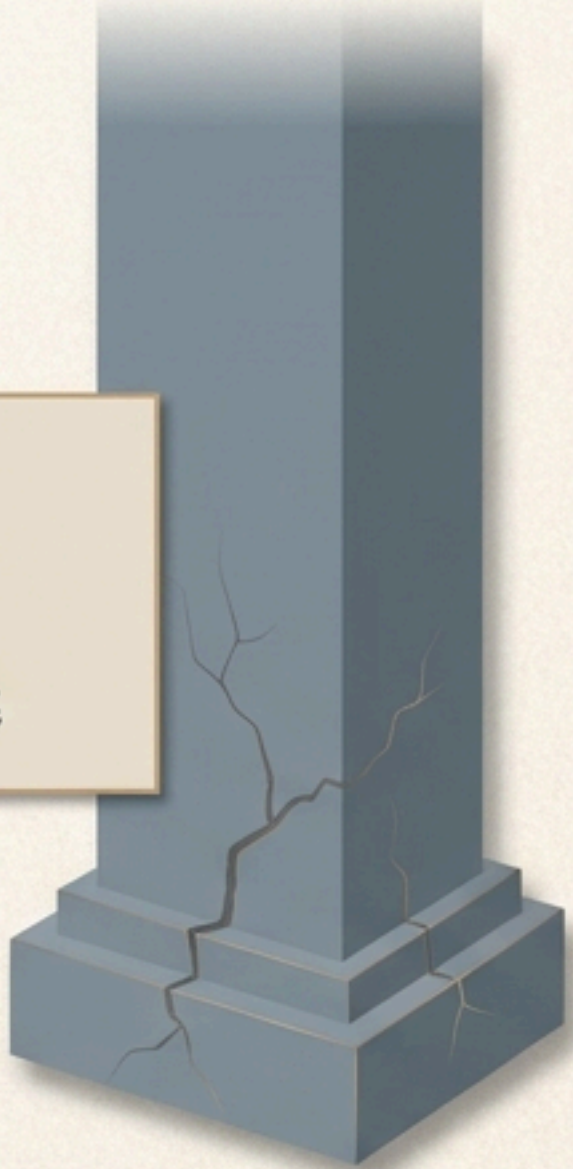


お金を増やす本質は「分散」と「整え」である


TAOISMの視点から紐解く、崩れない資産のアーキテクチャ



揺らぐ「絶対的な安定」と不確実性の時代



日本経済の限界
日本円の価値低下
長期成長への期待の後退



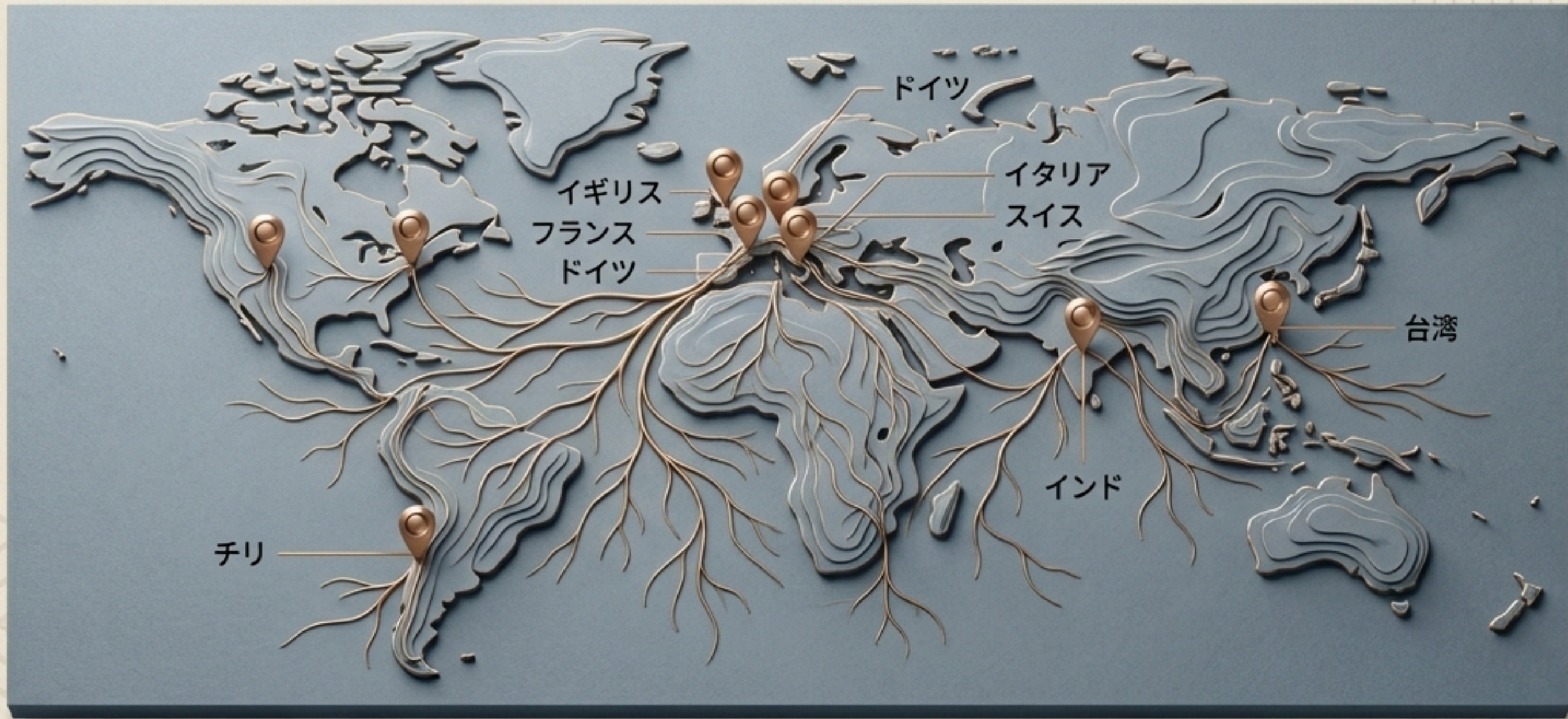
米国経済の変動
大手企業による継続的なリストラ
絶対的強者の不在

かつての絶対的な安定は揺らぎ始めています。
一つの国、一つの通貨に依存する構造は、もはや安全とは呼べません。

投資のパラダイムシフト：「攻め」から「整え」へ

		
リターンの追求（勝つこと）	目的 (Goal)	構造の維持（崩れないこと）
集中と予測（攻め）	手法 (Method)	分散と配置（整え）
避けるべき障害、または取るべき勝負	リスクの捉え方 (View on Risk)	自然な波。相殺し、和らげるもの
焦燥と競争	マインドセット (Mindset)	静観と調和

グローバル投資という思想：一つに依存しない選択



米国の富裕層は自国籍資産だけでなく、世界中へ資産を分散させます。これは単なるリスク回避ではなく、「一つに依存しない構造」を作るための生き方の実践です。偏りは不安定を生み、分散は安定を生みます。

崩れないための設計図：富裕層の投資配分



現代ポートフォリオ理論：危機から生まれた基本原理

1980年代：米国「双子の赤字」時代



厳しい経済的苦境と不確実性の中、
生き残るための生存戦略として
一つの理論が誕生しました。

分散効果（Diversification Effect）

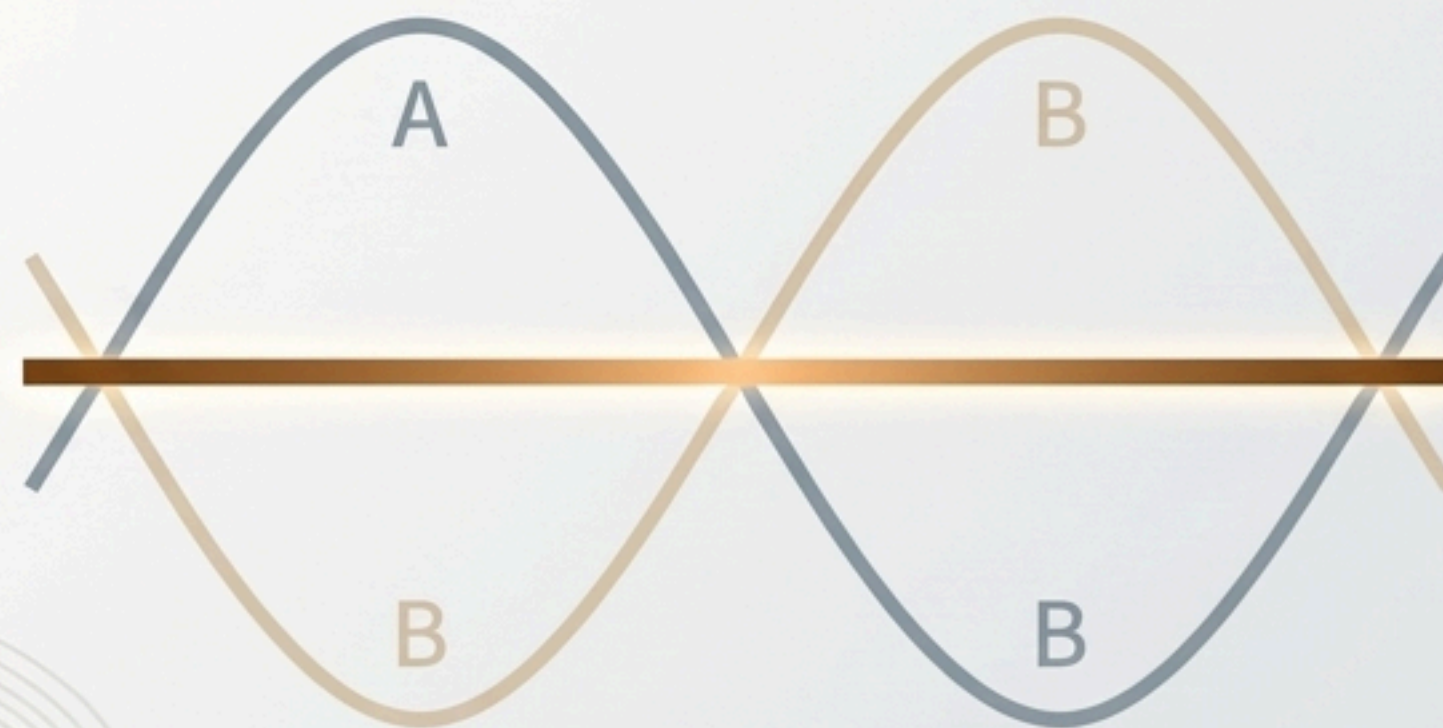
複数の資産を持つことで、ポートフォリオ全体のリスクを下げる。
一つが崩れても、全体は崩れない構造を作るという基本原理。

安定を生み出す2つの力：分散と相関

分散効果：荷重を散らす

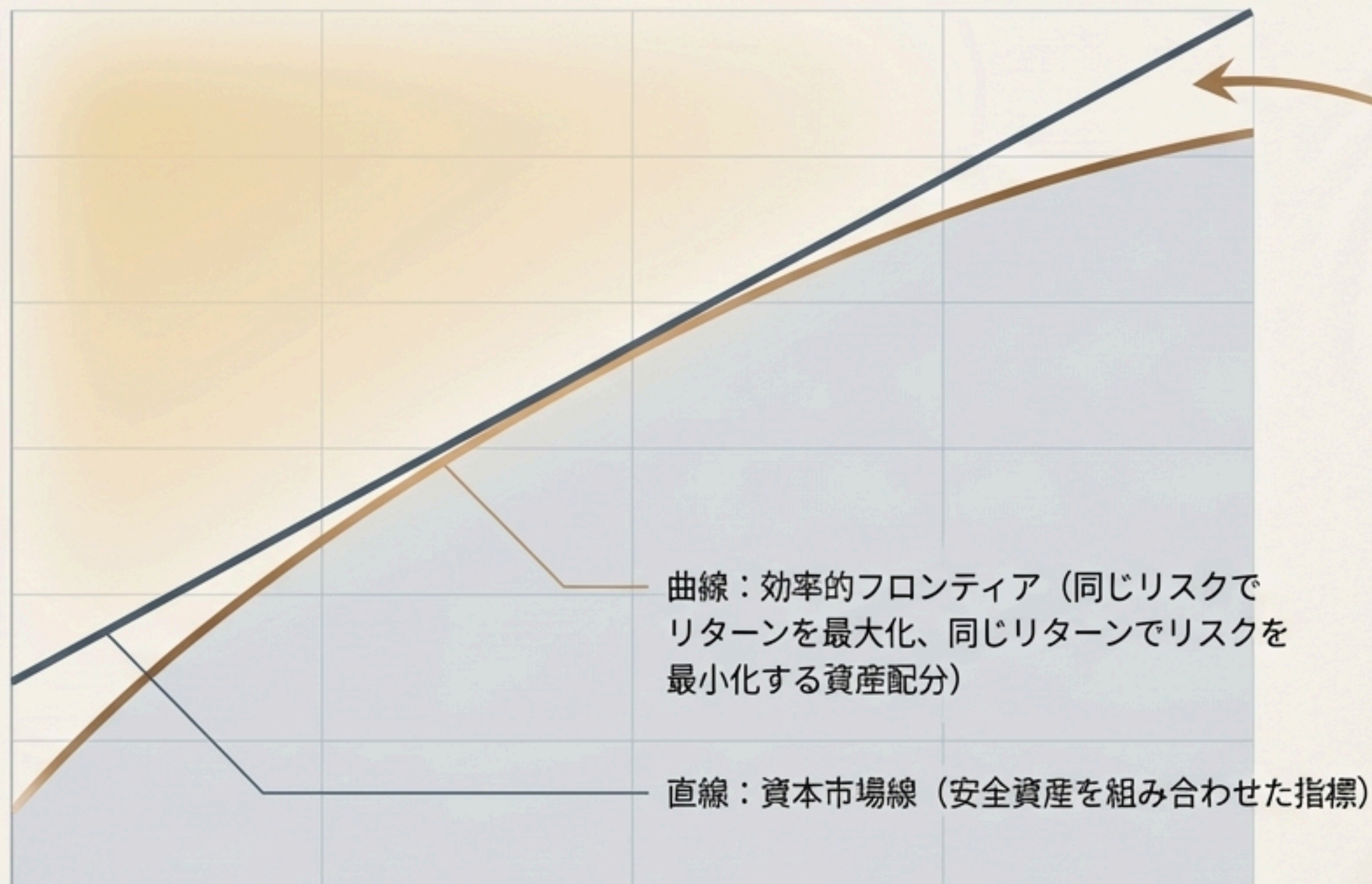


相関効果：同じ方向に動かない資産を持つ



資産同士の値動きが独立している（相関が低い）ことで、互いの波を打ち消し合い、全体としての絶対的な安定を生み出します。

最適点の追求：効率的フロンティアと資本市場線



左上に向かうほど「リスクは低く、リターンは高い」。より効率的な投資状態を示します。

これが、構造を整えた先にある最適解です。

理論と実践の一致：究極の証明

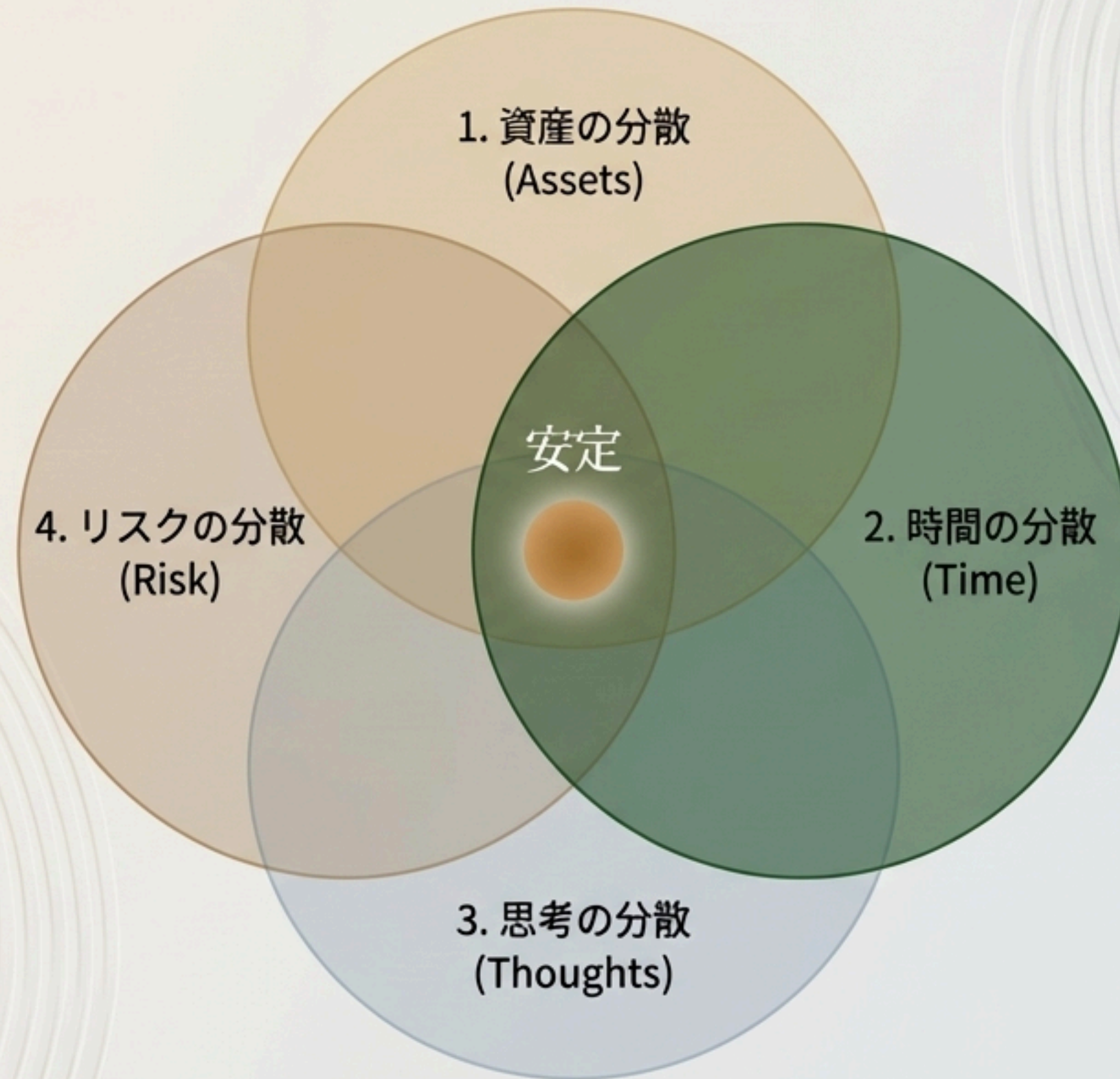


「賞金を自分の理論で運用したい」

ー ハリー・マーコウィッツ
(1990年 ノーベル経済学賞受賞)

現代ポートフォリオ理論を体系化した彼は、自身の賞金を自らの理論で運用しました。これは、この理論が机上の空論ではなく、現実の過酷な市場に耐えうる「実践的な構造」であることの何よりの証明です。

TAOISMの視点：分散とは生き方である



理論をTAOISMで捉え直すと、分散とは単なる投資技術ではありません。「偏りを避けるための生き方」そのものです。一つに賭けることは、大きな利益と同時に大きな崩壊リスクを抱えること。すべての次元において、バランスこそが安定を生みます

結び：増やすとは、整えることである

お金を増やすとは、単にリターンを追って「攻める」ことではありません。
リスクを整え、構造を整えることです。

一つに依存しない。分散させる。バランスを取る。
これらを徹底することで、資産は守られます。

整えられた構造の中で、資産は自然と成長していく。
それが本質的な資産形成の在り方です。

